

1 障害者の動向

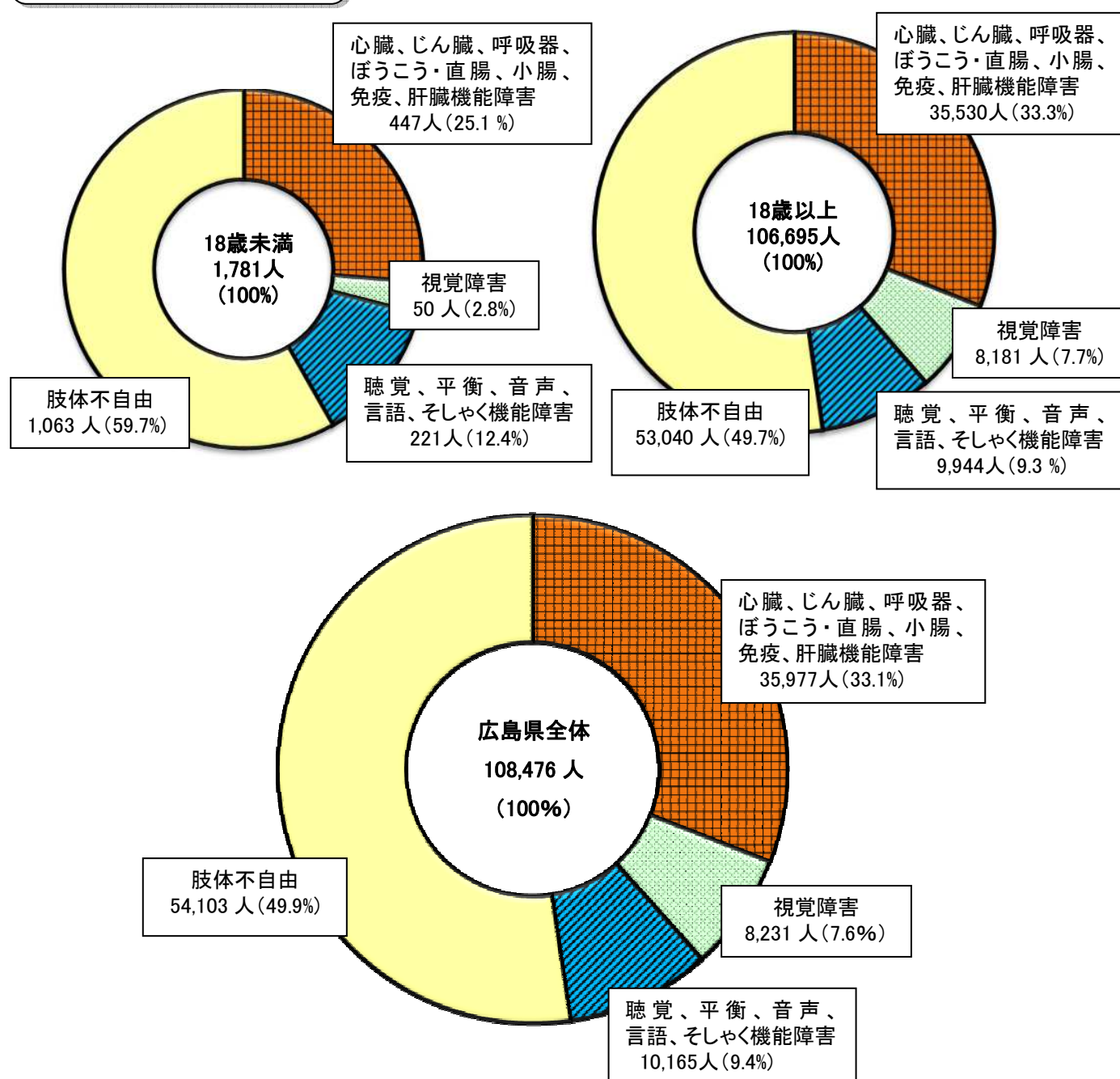
(1) 身体障害者（児）

わが国の身体障害者（児）の人数は、令和4（2022）年3月31日現在の身体障害者手帳交付数によると、4,910,098人となっています。（「福祉行政報告例」より）

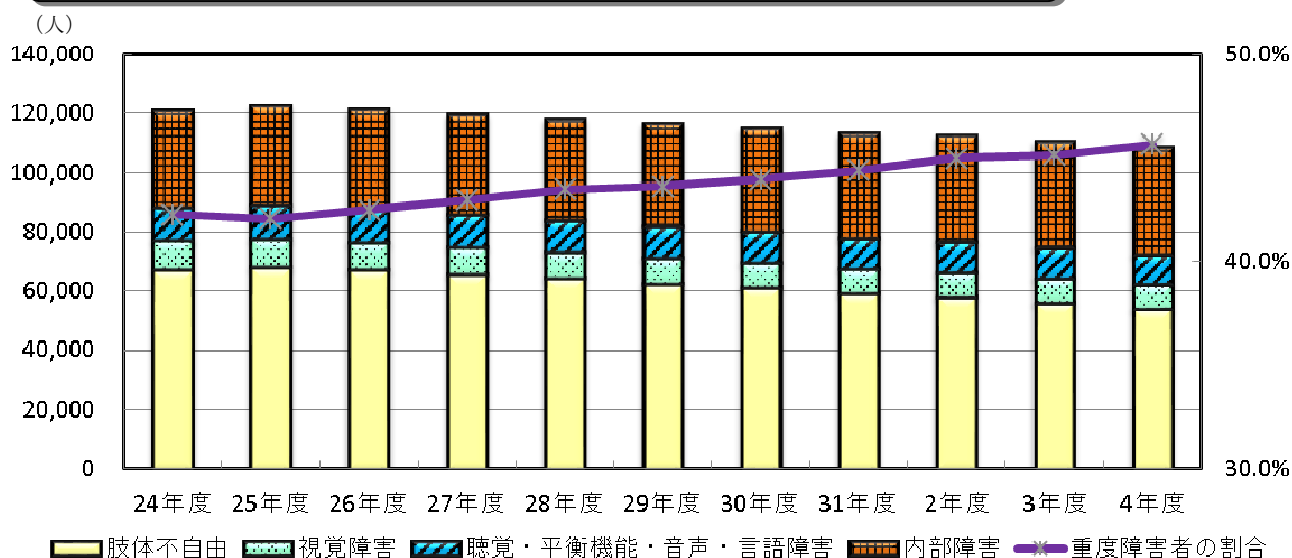
広島県の身体障害者（児）の人数は、令和5（2023）年3月31日現在の身体障害者手帳交付数によると、108,476人となっています。

これらの身体障害者（児）を、18歳未満、18歳以上の年齢別及び主な障害の種類別にみますと、次のとおりです。

障害の種類別の状況



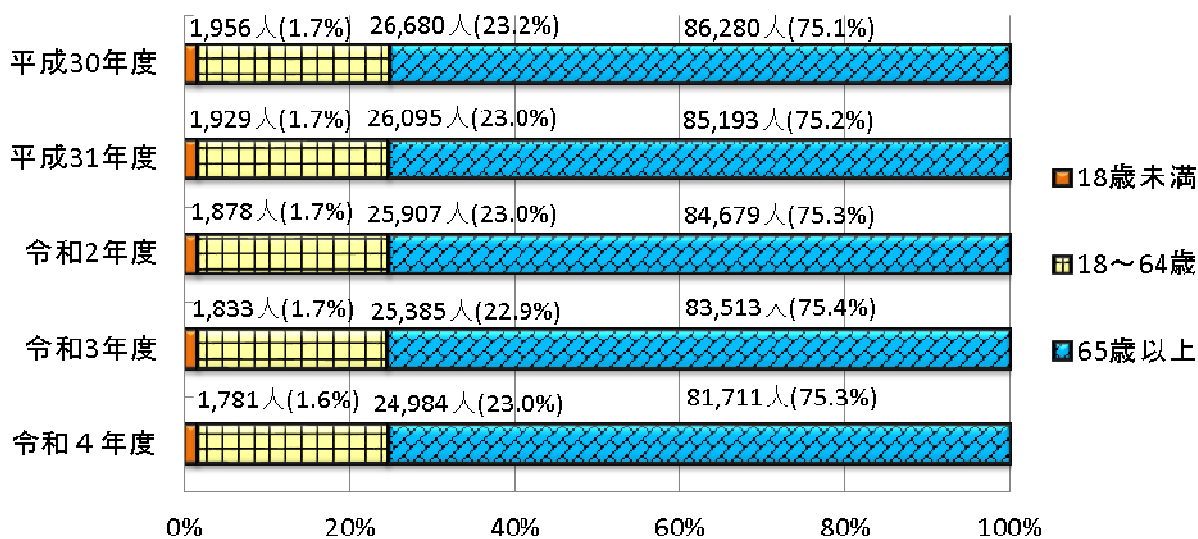
身体障害者手帳所持者数の障害別推移と重度障害者の割合



	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度	3年度	4年度
肢体不自由	67,222	68,143	67,140	65,687	64,302	62,613	61,149	59,281	58,109	56,291	54,103
視覚障害	9,781	9,568	9,321	9,096	8,878	8,663	8,584	8,480	8,426	8,368	8,231
聴覚障害者等	11,358	11,329	11,268	11,100	10,927	10,762	10,604	10,413	10,367	10,299	10,165
内部障害	32,693	33,361	33,633	33,961	34,215	34,355	34,579	35,043	35,562	35,773	35,977
計	121,054	122,401	121,362	119,844	118,322	116,393	114,916	113,217	112,464	110,731	108,476
重度障害者 (1～2級) (全体に占める割合)	51,159 42.3%	51,477 42.1%	51,562 42.5%	51,501 43.0%	51,440 43.5%	50,776 43.6%	50,515 44.0%	50,259 44.4%	50,606 45.0%	49,990 45.1%	49,519 45.6%

※当該年度3月31日現在（広島市、呉市及び福山市を含む）

身体障害者手帳所持者の年齢別構成比の推移



※当該年度3月31日現在（広島市、呉市及び福山市を含む）

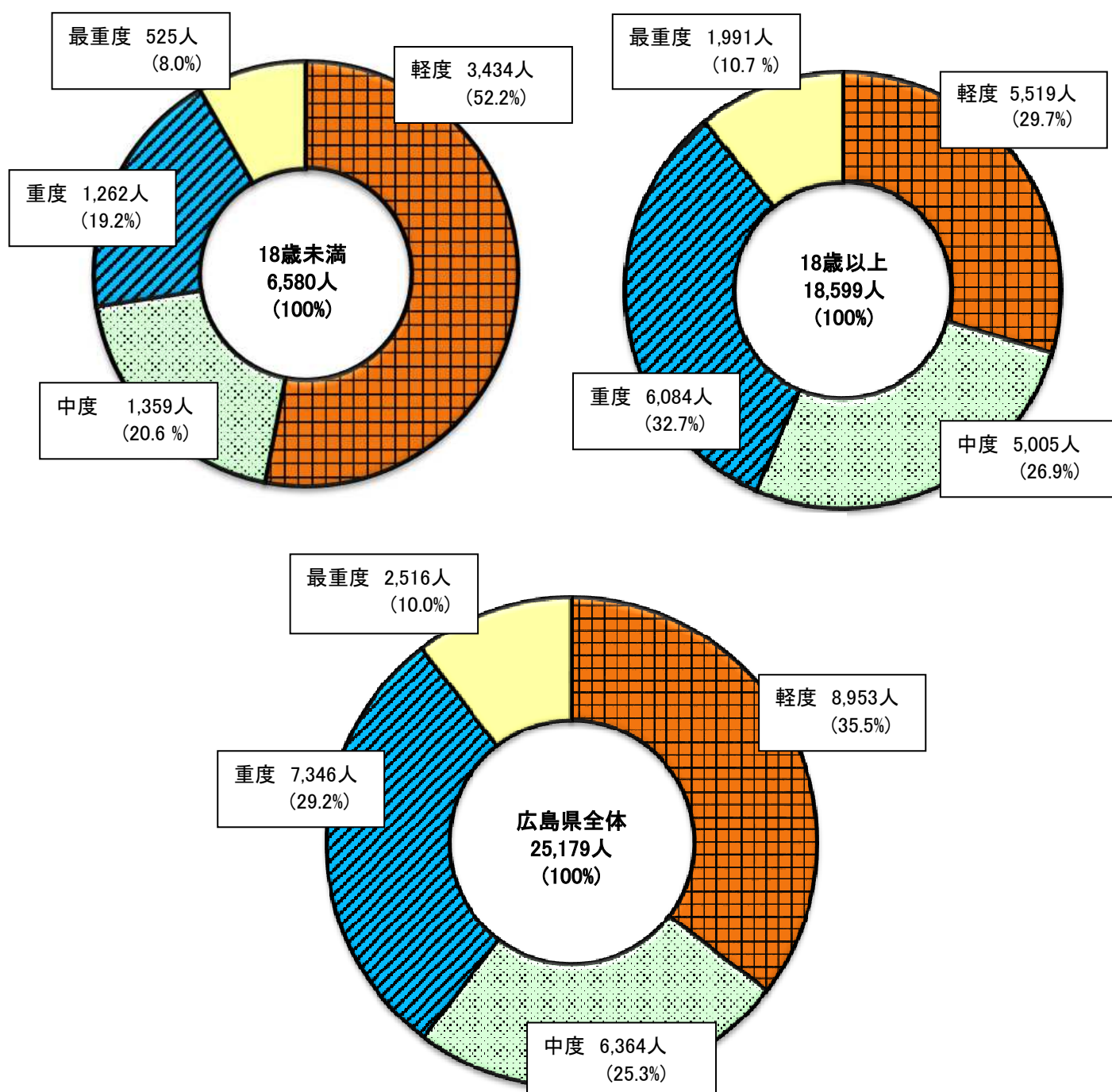
(2) 知的障害者（児）

知的障害者（児）は、その実態を把握することは困難ですが、わが国の知的障害者（児）の人数は、令和4（2022）年3月31日現在の療育手帳交付数によると、1,213,063人となっています。（「福祉行政報告例」より）

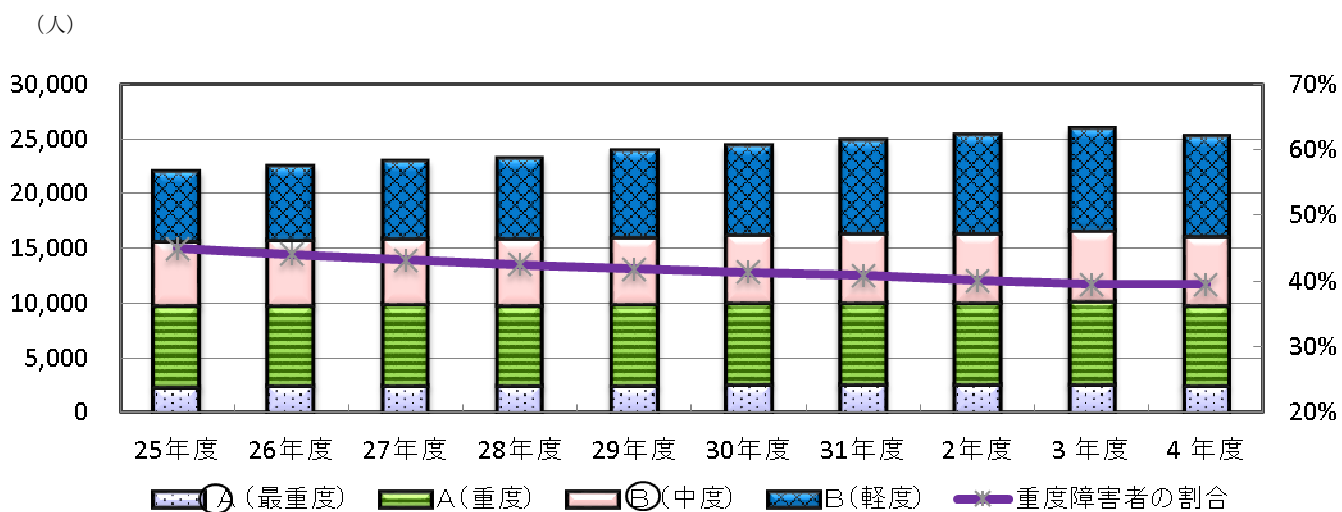
広島県における知的障害者（児）の人数は、令和5（2023）年3月31日現在の療育手帳交付台帳登録数によると、25,179人です。

これらの知的障害者（児）を、18歳未満、18歳以上の年齢別及び障害別にみますと、次のとおりです。

障害の程度別の状況



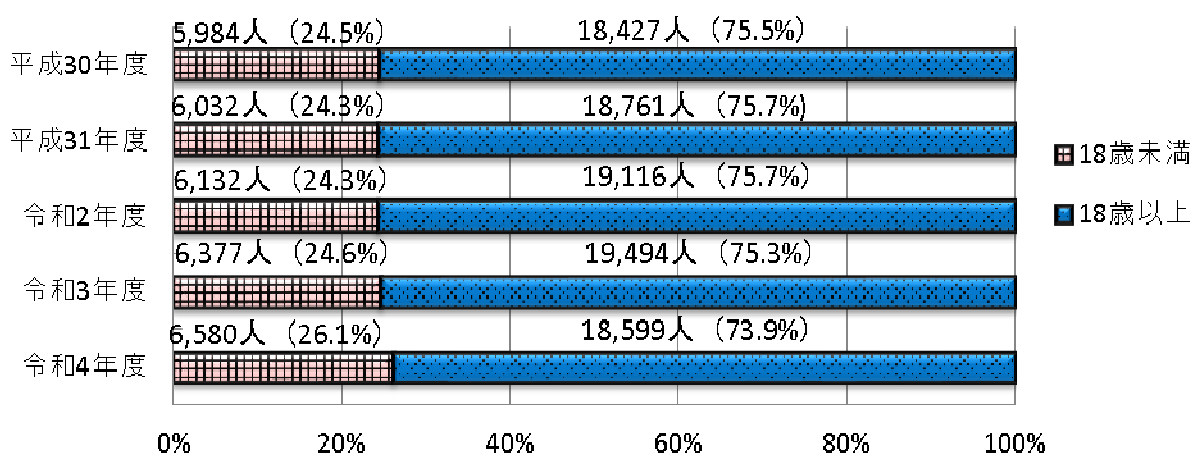
療育手帳所持者数の障害程度別推移と重度障害者（児）の割合



	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度	3年度	4年度
(A) (最重度)	2,416	2,465	2,486	2,492	2,534	2,577	2,600	2,608	2,659	2,516
A (重度)	7,948	7,442	7,469	7,369	7,449	7,516	7,546	7,520	7,572	7,346
(B) (中度)	5,836	5,942	6,043	6,032	6,139	6,193	6,227	6,317	6,465	6,364
B (軽度)	6,313	6,639	7,010	7,293	7,741	8,125	8,420	8,803	9,175	8,953
計	22,063	22,488	23,008	23,186	23,863	24,411	24,793	25,248	25,871	25,179
(A)+A	9,914	9,907	9,955	9,861	9,983	10,093	10,146	10,128	10,231	9,862
(全体に占める割合)	44.9%	44.1%	43.3%	42.5%	41.8%	41.3%	40.9%	40.1%	39.5%	39.2%

※当該年度3月31日現在（広島市を含む）

療育手帳所持者の年齢別構成比の推移



※当該年度3月31日現在（広島市を含む）

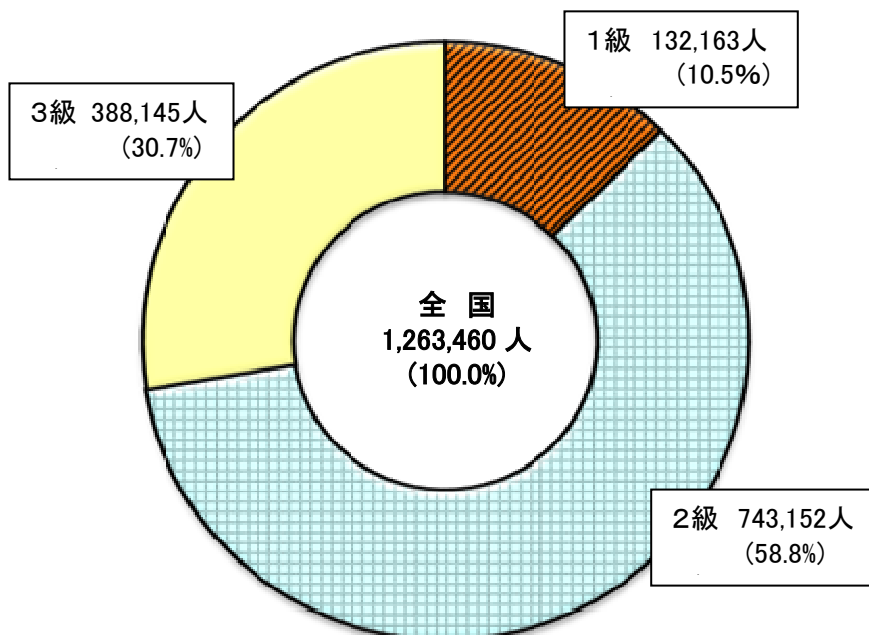
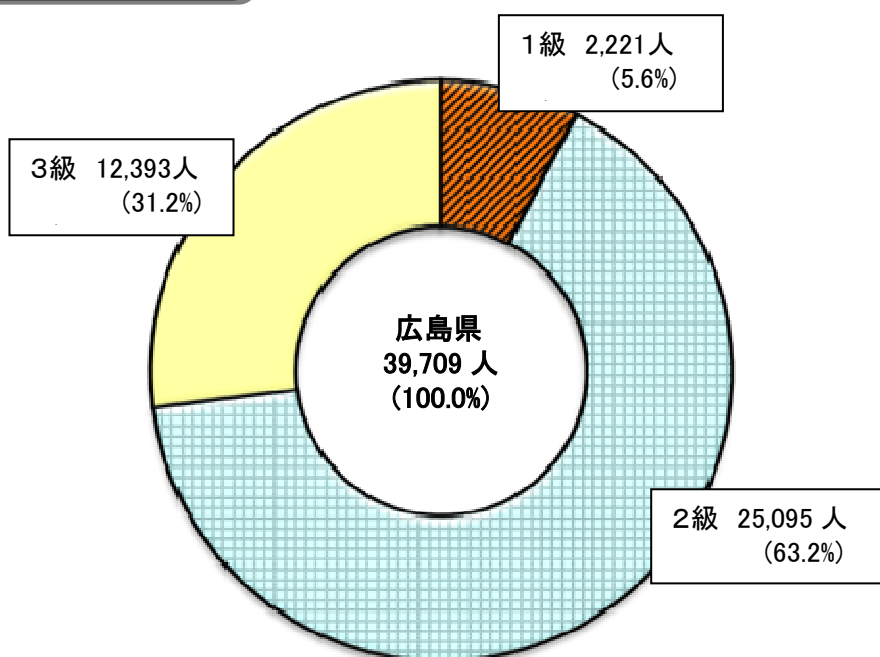
(3) 精神障害者

精神障害者は、その実態を把握することは困難ですが、わが国の精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた精神障害者の人数は、令和4年（2023）年3月31日現在1,263,460人となっています。（「衛生行政報告例」より）

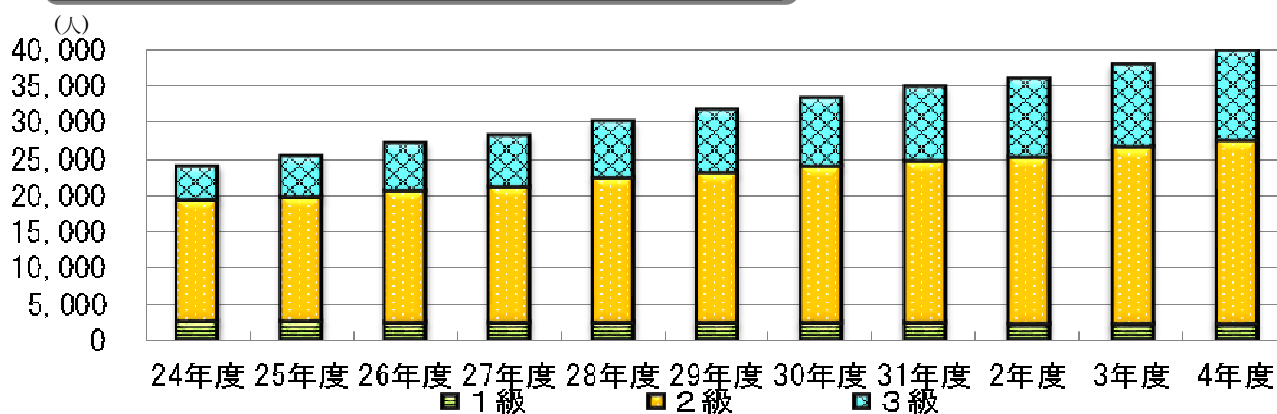
広島県における精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた精神障害者の人数は、令和5年（2023）年3月31日現在39,709人です。

これらの精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた精神障害者を、障害の程度別にみますと、次のとおりです。

障害の程度別の状況

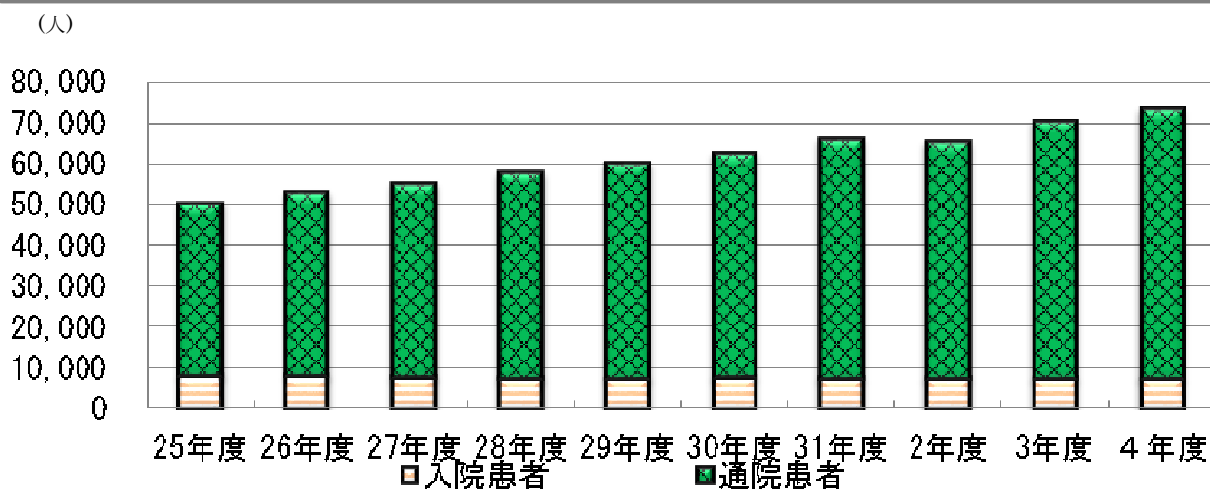


精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移



	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度	3年度	4年度
1級	2,654	2,593	2,510	2,492	2,517	2,432	2,405	2,379	2,306	2,290	2,221
2級	16,782	17,284	18,240	18,720	19,898	20,683	21,519	22,336	22,955	24,138	25,095
3級	4,671	5,524	6,228	6,820	7,726	8,508	9,343	10,112	10,583	11,448	12,393
合計	24,107	25,401	26,978	28,032	30,141	31,623	33,327	34,827	35,844	37,876	39,709

精神科病院入院患者数及び通院患者数（自立支援医療（精神通院）承認者数）

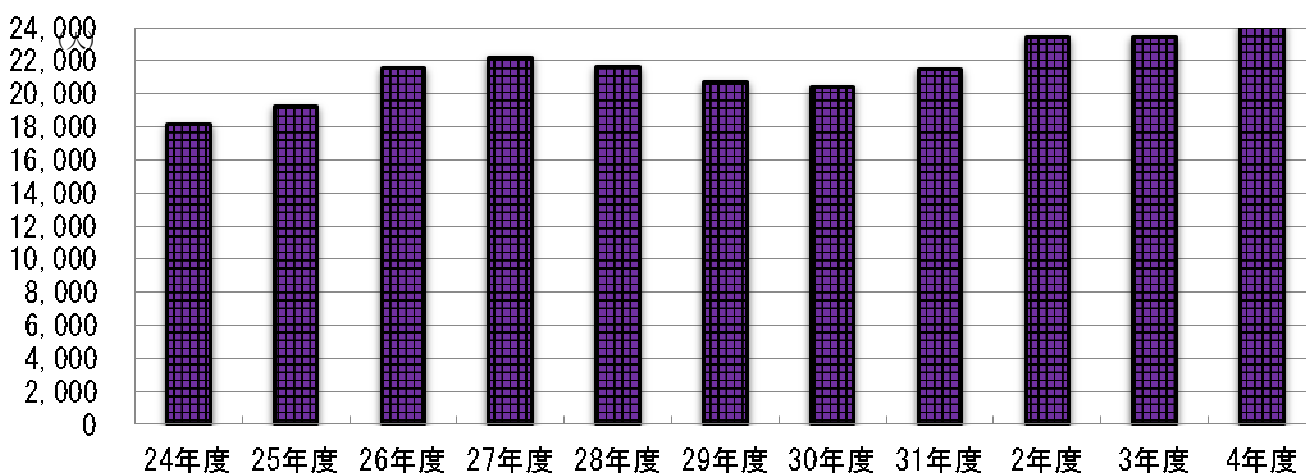


	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
入院患者	8,104	8,083	7,833	7,479	7,697	7,820	7,711	7,663	7,472	7,448
通院患者	42,350	44,993	47,515	50,393	52,632	54,840	58,325	57,724	62,911	66,072
計	50,454	53,076	55,348	57,872	60,329	62,660	66,036	65,387	70,383	73,520

※入院患者数は各年度6月30日現在、通院患者数は3月31日現在（広島市を含む）

(4) 難病患者

県内の特定医療費（指定難病）等受給者数は、令和5（2023）年3月31日現在24,230人となっています。



	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度	3年度	4年度
特定医療費(指定難病)等受給者数	18,126	19,248	21,530	22,191	21,638	20,687	20,388	21,528	23,391	23,450	24,230

※平成27年度以前は、特定疾患医療治療研究事業承認数

- なお、平成27年1月1日より「難病の患者に対する医療等に関する法律（難病法）」が施行され、次の338の疾患が「指定難病」として医療費助成の対象となっています。
 （「指定難病」の対象となっていないスモン、難治性肝炎のうち劇症肝炎、重症急性膵炎についても、既に受給者証の交付を受けられている方は、引き続き医療費助成を受けることができます。）

「 指 定 難 病 」 対 象 疾 患	
01 球脊髄性筋萎縮症	61 自己免疫性溶血性貧血
02 筋萎縮性側索硬化症	62 発作性夜間ヘモグロビン尿症
03 脊髄性筋萎縮症	63 特発性血小板減少性紫斑病
04 原発性側索硬化症	64 血栓性血小板減少性紫斑病
05 進行性核上性麻痺	65 原発性免疫不全症候群
06 パーキンソン病	66 I g A 腎症
07 大脳皮質基底核変性症	67 多発性嚢胞腎
08 ハンチントン病	68 黄色靱帯骨化症
09 神経有棘赤血球症	69 後縦靱帯骨化症
10 シャルコー・マリー・トゥース病	70 広範脊柱管狭窄症
11 重症筋無力症	71 特発性大腿骨頭壊死症
12 先天性筋無力症候群	72 下垂体性 ADH 分泌異常症
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎	73 下垂体性 TSH 分泌亢進症
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	74 下垂体性 PRL 分泌亢進症
15 封入体筋炎	75 クッシング病
16 クロウ・深瀬症候群	76 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症
17 多系統萎縮症	77 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く)	78 下垂体前葉機能低下症
19 ライソゾーム病	79 家族性高コレステロール血症 (ホモ接合体)
20 副腎白質ジストロフィー	80 甲状腺ホルモン不応症
21 ミトコンドリア病	81 先天性副腎皮質酵素欠損症
22 もやもや病	82 先天性副腎低形成症
23 プリオン病	83 アジソン病
24 亜急性硬化性全脳炎	84 サルコイドーシス
25 進行性多巣性白質脳症	85 特発性間質性肺炎
26 HTLV-1 関連脊髄症	86 肺動脈性肺高血圧症
27 特発性基底核石灰化症	87 肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症
28 全身性アミロイドーシス	88 慢性血栓性肺高血圧症
29 ウルリッヒ病	89 リンパ脈管筋腫症
30 遠位型ミオパチー	90 網膜色素変性症
31 ベスレムミオパチー	91 バッド・キアリ症候群
32 自己食空胞性ミオパチー	92 特発性門脈圧亢進症
33 シュワルツ・ヤンペル症候群	93 原発性胆汁性肝硬変
34 神経線維腫症	94 原発性硬化性胆管炎
35 天疱瘡	95 自己免疫性肝炎
36 表皮水疱症	96 クローン病
37 膿疱性乾癬 (汎発型)	97 潰瘍性大腸炎
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群	98 好酸球性消化管疾患
39 中毒性表皮壊死症	99 慢性特発性偽性腸閉塞症
40 高安動脈炎	100 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症
41 巨細胞性動脈炎	101 腸管神経節細胞減少症
42 結節性多発動脈炎	102 ルビンスユタイン・テイビ症候群
43 顕微鏡的多発血管炎	103 CFC 症候群
44 多発血管炎性肉芽腫症	104 コステロ症候群
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	105 チャージ症候群
46 悪性関節リウマチ	106 クリオピリン関連周期熱症候群
47 バージャー病	107 若年性特発性関節炎
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	108 TNF 受容体関連周期性症候群
49 全身性エリテマトーデス	109 非典型溶血性尿毒症症候群
50 皮膚筋炎／多発性筋炎	110 ブラウ症候群
51 全身性强皮症	111 先天性ミオパチー
52 混合性結合組織病	112 マリネスコ・シェーグレン症候群
53 シェーグレン症候群	113 筋ジストロフィー
54 成人スチル病	114 非ジストロフィー性ミオニー症候群
55 再発性多発軟骨炎	115 遺伝性周期性四肢麻痺
56 ベーチェット病	116 アトピー性脊髄炎
57 特発性拡張型心筋症	117 脊髄空洞症
58 肥大型心筋症	118 脊髄髄膜瘤
59 拘束型心筋症	119 アイザックス症候群
60 再生不良性貧血	120 遺伝性ジストニア

「 指 定 難 病 」 対 象 疾 患	
121 神経フェリチン症	181 クルーゾン症候群
122 脳表ヘモジデリン沈着症	182 アペール症候群
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	183 ファイファー症候群
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	184 アントレー・ビクスラー症候群
125 神経軸策スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	185 コフィン・シリス症候群
126 ペリー症候群	186 ロスマンド・トムスン症候群
127 前頭側頭葉変性症	187 歌舞伎症候群
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	188 多脾症候群
129 痙攣重積型(二相生)急性脳症	189 無脾症候群
130 先天性無痛無汗症	190 鰓耳腎症候群
131 アレキサンダー病	191 ウェルナー症候群
132 先天性核上性球麻痺	192 コケイン症候群
133 メビウス症候群	193 プラダー・ウィリ症候群
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	194 ソトス症候群
135 アイカルディ症候群	195 スーナン症候群
136 片側巨脳症	196 ヤング・シンプソン症候群
137 限局性皮質異形成	197 1 p 36 欠失症候群
138 神経細胞移動異常症	198 4 p 欠失症候群
139 先天性大脳白質形成不全症	199 5 p 欠失症候群
140 ドラベ症候群	200 第 14 番染色体父親性ダイソミー症候群
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	201 アンジェルマン症候群
142 ミオクロニー欠伸てんかん	202 スミス・マギニス症候群
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	203 2 2 p 11.2 欠失症候群
144 レノクッス・ガストー症候群	204 エマヌエル症候群
145 ウエスト症候群	205 脆弱 X 症候群関連疾患
146 大田原症候群	206 脆弱 X 症候群
147 早期ミオクロニー脳症	207 総動脈幹遺残症
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	208 修正大血管転位症
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	209 完全大血管転位症
150 環状 20 番染色体症候群	210 単心室症
151 ラスムッセン脳炎	211 左心低形成症候群
152 PCDH19 関連症候群	212 三尖弁閉鎖症
153 難治顔回部分発作重積型急性脳炎	213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症
155 ランドウ・クレフナー症候群	215 ファロー四徴症
156 レット症候群	216 両大血管右室起始症
157 スタージ・ウェーバー症候群	217 エプスタイン病
158 結節性硬化症	218 アルポート症候群
159 色素性乾皮症	219 ギャロウェイ・モワト症候群
160 先天性魚鱗癬	220 急速進行性糸球体腎炎
161 家族性良性慢性天疱瘡	221 抗糸球体基底膜腎炎
162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む)	222 一次性ネフローゼ症候群
163 特発性後天性全身性無汗症	223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎
164 眼皮膚白皮症	224 紫斑病性腎炎
165 肥厚性皮膚骨膜炎	225 先天性腎性尿崩症
166 弾性線維性仮性黄色腫	226 間質性膀胱炎(ハンナ型)
167 マルフアン症候群	227 オスラー病
168 エーラス・ダンロス症候群	228 閉塞性細気管支炎
169 メンケス病	229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)
170 オクシピタル・ホーン症候群	230 肺胞低換気症候群
171 ウィルソン病	231 α 1-アンチトリプシン欠乏症
172 低ホスファターゼ症	232 カーニー複合
173 VATER 症候群	233 ウォルフラム症候群
174 那須・ハコラ病	234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く)
175 ウィーバー症候群	235 副甲状腺機能低下症
176 コフィン・ローリー症候群	236 偽性副甲状腺機能低下症
177 ジュベール症候群	237 副腎皮質刺激ホルモン不応症
178 モワット・ウィルソン症候群	238 ビタミン D 抵抗性くる病/骨軟化症
179 ウィリアムズ症候群	239 ビタミン D 依存性くる病/骨軟化症
180 ATR-X 症候群	240 フェニルケトン尿症

「 指 定 難 病 」 対 象 疾 患	
241 高チロシン血症 1 型	301 黄斑ジストロフィー
242 高チロシン血症 2 型	302 レーベル遺伝性視神経症
243 高チロシン血症 3 型	303 アッシャー症候群
244 メープルシロップ尿症	304 若年発症型両側性感音難聴
245 プロピオン酸血症	305 遅発性内リンパ水腫
246 メチルマロン酸血症	306 好酸球性副鼻腔炎
247 イソ吉草酸血症	307 カナバン病
248 グルコーストランスポーター1 欠損症	308 進行性白質脳症
249 グルタル酸血症 1 型	309 進行性ミオクローヌステんかん
250 グルタル酸血症 2 型	310 先天異常症候群
251 尿素サイクル異常症	311 先天性三尖弁狭窄症
252 リジン尿性蛋白不耐症	312 先天性僧帽弁狭窄症
253 先天性葉酸吸収不全	313 先天性肺静脈狭窄症
254 ポルフィリン症	314 左肺動脈右肺動脈起始症
255 複合カルボキシラーゼ欠損症	315 ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX 1 B 関連腎症
256 筋型糖原病	316 カルニチン回路異常症
257 肝型糖原病	317 三頭酵素欠損症
258 ガラクトース-1-リン酸グリシルトランスフェラーゼ欠損症	318 シトリン欠損症
259 レチンコレステロールシルトランスフェラーゼ欠損症	319 セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症
260 シトステロール血症	320 先天性グリコシルホスフィチジルイノリトール （GPI）欠損症
261 タンジール病	321 非ケトーシス型高グリシン血症
262 原発性高カイロミクロン血症	322 β-ケトチオラーゼ欠損症
263 脳髄黄色腫症	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症
264 無βリポタンパク血症	324 メチルグルタコン酸尿症
265 脂肪萎縮症	325 遺伝性自己炎症疾患
266 家族性地中海熱	326 大理石骨症
267 高IgD症候群	327 特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限 る。）
268 中條・西村症候群	328 前眼部形成異常
269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	329 無虹彩症
270 慢性再発性多発性骨髄炎	330 先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症
271 強直性脊椎炎	331 特発性中心性キャッスルマン病
272 進行性骨化性線維異形成症	332 膠様滴状角膜ジストロフィー
273 肋骨異常を伴う先天性側弯症	333 ハッチンソン・ギルフォード症候群
274 骨形成不全症	334 脳クレアチン欠乏症候群
275 タナトフォリック骨異形成症	335 ネフロシス
276 軟骨無形成症	336 家族性低βリポタンパク血症1（ホモ接合体）
277 リンパ管腫症／ゴーハム病	337 ホモシスチン尿症
278 巨大リンパ管奇形（頸部顔面病変）	338 進行性家族性肝内胆汁うっ滞症
279 巨大静脈奇形（頸部口腔咽頭びまん性病変）	
280 巨大動脈奇形（頸部顔面又は四肢病変）	
281 クリップル・トレノネー・ウェーバー症候群	
282 先天性赤血球形成異常性貧血	
283 後天性赤芽球癆	
284 ダイアモンド・ブラックファン貧血	
285 ファンコニ貧血	
286 遺伝性鉄芽球性貧血	
287 エプスタイン症候群	
288 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	
289 クロンカイト・カナダ症候群	
290 非特異性多発性小腸潰瘍症	
291 ヒルシュスブルング病（全結腸型又は小腸型）	
292 総排泄腔外反症	
293 総排泄腔遺残	
294 先天性横隔膜ヘルニア	
295 乳幼児肝巨大血管腫	
296 胆道閉鎖症	
297 アラジール症候群	
298 遺伝性膝炎	
299 嚢胞性線維症	
300 IgG4 関連疾患	

(5) 発達障害者（児）

広島県の発達障害者（児）数は明らかになっていませんが、文部科学省が令和4年（2022）年1月から2月にかけて実施した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」では、全国の公立小中学校の通常の学級に在籍する児童生徒のうち、学習や行動に困難のある発達障害の可能性のある児童生徒の割合（推定値）は8.8%という結果が出ています。

一方、厚生労働省が令和2年10月に全国の病院及び診療所を利用した患者を対象として実施した「患者調査」（令和4年6月公表）の結果では、医療機関を継続的に受療している発達障害者支援法（平成16年法律第167号）に規定する発達障害の総患者数は約59万人となっています。

また、同省が平成28年に実施した「生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」では、医師から発達障害と診断された者の数（推計値）は、48万1,000人という結果が出ています。

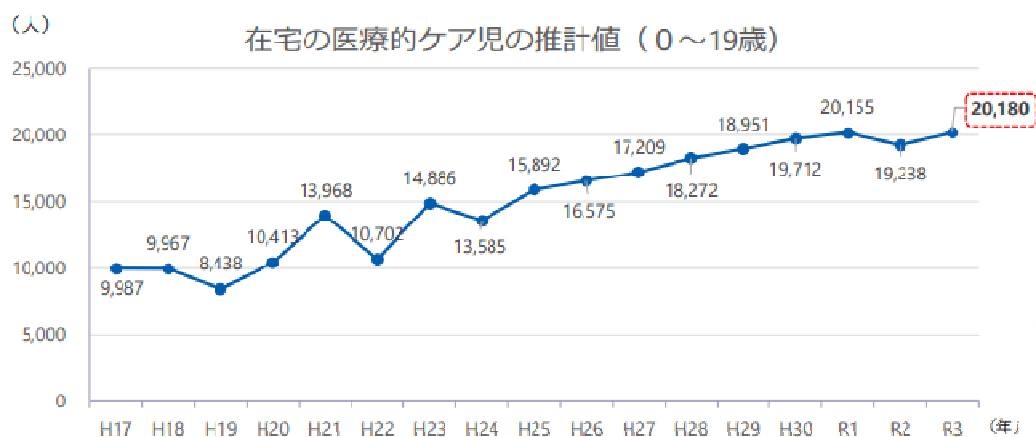
(6) 医療的ケア児

医療的ケア児とは、「日常生活及び社会生活を営むために恒常的に医療的ケアを受けることが不可欠である児童（18歳未満の者及び18歳以上の者であって高等学校等（学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部をいう。以下同じ。）に在籍するもの）」（※）のことであり、医療技術の進歩に伴って増加していると推計されており、その実態も多様化しています。

厚生労働省の推計では、在宅の医療的ケア児数は、令和3年度には全国で約20,000人と推計されており、平成17年度の約10,000人から、16年間で約2倍の数に増加しています。

また、同推計では、平成28年10月1日現在の本県の医療的ケア児数は422人と推計されているところ、令和3年度に県が実施した「医療的ケア児及びその家族の生活状況や支援ニーズに関する調査」の結果からは、県内の在宅の医療的ケア児数は499人であることが確認されました。

※ 「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（令和3年法律第81号）」第2条の定義による。同様に、医療的ケアは「人工呼吸器による管理、喀痰吸引その他の医療行為」と定義されている。



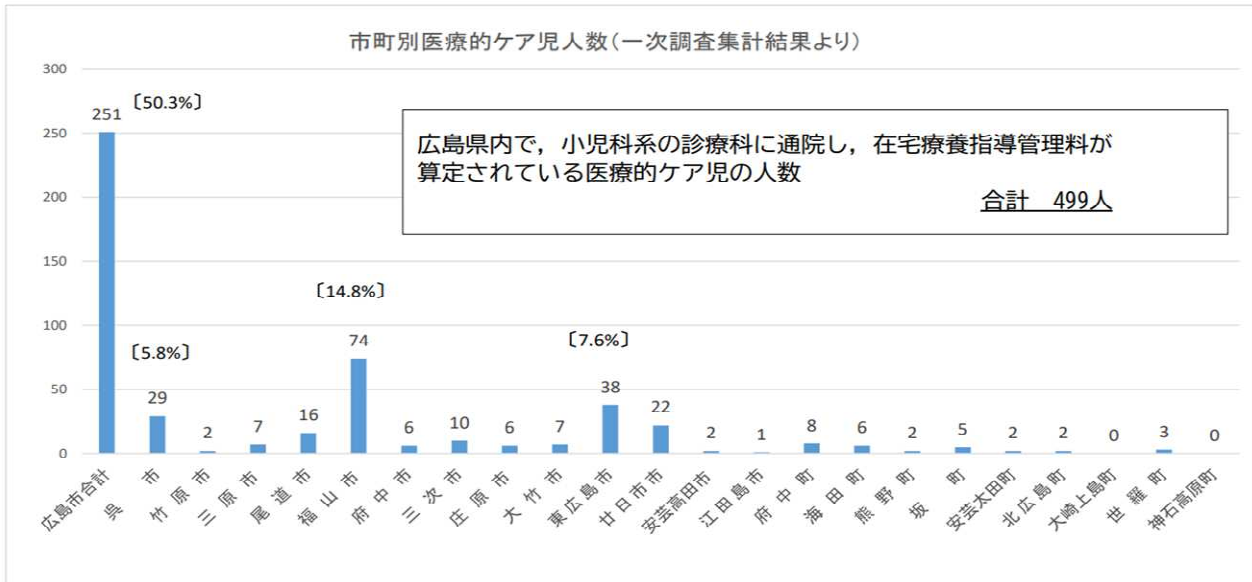
出典：厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究（田村班）」及び当該研究事業の協力のもと、社会医療診療行為別統計（各年6月審査分）により厚生労働省障害児・発達障害者支援室作成

都道府県別の医療的ケア児数(推計値)及び、総人口並びに20歳未満人口1万人あたりの値
(平成28年10月1日現在、総務省人口推計を使用)

番号	都道府県	人口 (千人)	20歳未満 人口(千人)	医療的ケア児		医療的ケア児	
				推計値	1万人あたり	20歳未満1万人	20歳未満1万人
0	全国	126,933	21,820	17,058	1.344	7.818	
1	北海道	5,352	837	615	1.148	7.343	
2	青森県	1,293	207	101	0.783	4.891	
3	岩手県	1,268	207	130	1.022	6.260	
4	宮城県	2,330	399	374	1.604	9.365	
5	秋田県	1,010	147	97	0.962	6.610	
6	山形県	1,113	184	105	0.946	5.725	
7	福島県	1,901	319	199	1.049	6.249	
8	茨城県	2,905	504	402	1.382	7.968	
9	栃木県	1,966	343	275	1.400	8.022	
10	群馬県	1,967	344	265	1.348	7.706	
11	埼玉県	7,289	1,257	664	0.911	5.280	
12	千葉県	6,236	1,053	758	1.215	7.195	
13	東京都	13,624	2,093	2,140	1.571	10.225	
14	神奈川県	9,145	1,564	1,094	1.196	6.992	
15	新潟県	2,286	379	262	1.145	6.906	
16	富山県	1,061	177	115	1.087	6.516	
17	石川県	1,151	204	148	1.283	7.239	
18	福井県	782	143	100	1.278	6.987	
19	山梨県	830	144	90	1.082	6.238	
20	長野県	2,088	367	311	1.490	8.476	
21	岐阜県	2,022	367	263	1.301	7.166	
22	静岡県	3,688	647	559	1.516	8.639	
23	愛知県	7,507	1,398	1,044	1.391	7.468	
24	三重県	1,808	321	171	0.943	5.312	
25	滋賀県	1,413	276	270	1.911	9.783	
26	京都府	2,605	439	295	1.131	6.712	
27	大阪府	8,833	1,514	1,380	1.562	9.115	
28	兵庫県	5,520	975	809	1.465	8.294	
29	奈良県	1,356	237	166	1.227	7.018	
30	和歌山県	954	162	108	1.130	6.656	
31	鳥取県	570	100	124	2.180	12.425	
32	島根県	690	119	73	1.063	6.162	
33	岡山県	1,915	343	345	1.799	10.044	
34	広島県	2,837	509	422	1.487	8.287	
35	山口県	1,394	233	131	0.943	5.640	
36	徳島県	750	121	67	0.889	5.510	
37	香川県	972	169	99	1.014	5.833	
38	愛媛県	1,375	232	193	1.406	8.333	
39	高知県	721	115	79	1.097	6.877	
40	福岡県	5,104	926	796	1.560	8.598	
41	佐賀県	828	157	99	1.200	6.327	
42	長崎県	1,367	242	169	1.233	6.966	
43	熊本県	1,774	325	264	1.487	8.115	
44	大分県	1,160	199	142	1.221	7.119	
45	宮崎県	1,096	201	185	1.684	9.183	
46	鹿児島県	1,637	297	244	1.492	8.224	
47	沖縄県	1,439	331	320	2.222	9.660	

※1 平成29年度厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究(田村班)」報告書より抜粋
 ※2 医療機関所在地からの集計結果のため、患者の住所地とは異なる場合もあることに留意

[令和3年度 広島県「医療的ケア児及びその家族の生活状況や支援ニーズに関する調査」結果]



出典：広島県ホームページ「令和3年度医療的ケア児及びその家族の生活状況及び支援ニーズに係る調査結果」より抜粋